

毎日新聞

■FFGが新金融サービス共同研究

福岡銀行（福岡市）などを傘下に置くふくおかフィナンシャルグループ（FFG）は15日、情報通信会社のハウインターナショナル（福岡県飯塚市）と共同で、情報技術を駆使した新しい金融サービス「フィンテック」についての研究を始めると発表した。

インターネット上で、外部からの改ざんが極めて困難なデータを扱うことができる「ブロックチェーン」といわれる技術について、ハウ社がアプリケーションを開発し、FFGが決済サービスなどに活用できるかを検証する。ブロックチェーンの研究は九州・山口の地銀で珍しいという。

日本経済新聞

ブロックチェーン研究
ふくおかFGとハウ社
ふくおかフィナンシャルグループ（FFG）は15日、取引記録を低コストで管理する「ブロックチェーン」を使う金融サービスをハウインターナショナル（福岡県飯塚市）と共同研究すると発表した。ハウ社が開発したブロックチェーンの実証環境を活用し、ふくおかFGが開発を進める金融サービスプラットフォーム「iBank」（仮称）などでの活用を目指す。

産経新聞

仮想通貨に応用期待

ふくおかFG 技術研究スタート

ふくおかフィナンシャルグループ（FG）は15日、ネットワーク上の取引記録などを管理し、データの改変を防ぐ「ブロックチェーン」と呼ばれるIT（情報技術）の研究を始めた。仮想通貨など、新たな金融サービスへの応用が期待されるといふ。システム開発のハウインターナショナル（福岡県飯塚市、正田英樹社長）と共同で研究する。ブロックチェーンは、ネ

ット上の仮想通貨「ビットコイン」の取引においても、機密性の高いデータを管理し、守るために使われている。みずほ銀行や、日本取引所グループも研究を進めている。

ふくおかFGは今後、今夏にも導入する「iBank（仮称）」や、小口決済、国際送金などへの応用ができないか調べる。

政府は4日、ビットコインなど仮想通貨に「貨幣の機能」を認めた上で、規制する関連法改正案を閣議決定し、国会に提出した。こうした仮想通貨の普及によってブロックチェーンのようなIT技術の重要性は高まる。